



No.58
June 20, 2014

広報

藤

行事予定

- 7月
 - ～ 11日 文学部授業ライブ
 - 29日～ 8月 4日 前期定期試験(文学部)
 - 26日 人間生活学部 夏のオープンキャンパス
 - 27日 文学部 夏のオープンキャンパス
- 8月
 - 5日～ 夏季休業
- 9月
 - 18日 後期授業開始 前期成績発表
 - 22日～ 12月 5日 文学部授業ライブ
 - 27日 秋のミニオープンキャンパス
 - 28日 学園創立記念日
 - 28日 大学院 人間生活学研究科入学試験
- 10月
 - 11日～ 12日 花川キャンパス大学祭
 - 18日～ 19日 北16条キャンパス大学祭
 - 31日 慰霊祭(通常授業)
- 11月
 - 15日 文学部・人間生活学部 推薦入学試験 社会人入学試験 編入学試験
- 12月
 - 18日 学生クリスマスの会(午後休講)
 - 24日～ 冬季休業



キノコリズ資料館



入学式



アソビ全景



セントエリザベス大学長との会食



ニューヨークでの散策



セントエリザベス大学チャペルにて



<http://www.fujijoshi.ac.jp/>

年月が流れ

学長 喜田 勲

昨年9月14日～15日の両日、本学は、創立100周年を迎えた上智大学と共催し、「東西の出会いからグローバル化へー日本における高等教育ー」をテーマに、公開講演とシンポジウムを開催した。シンポジウムには北海道の地で共に長く教育事業に従事する北海学園大学と北星学園大学のご協力を頂いた。趣旨は、教育理念を共有し学生交流協定を結ぶ上智大学のご慶事を寿ぎ、グローバル化が進展するなか、相互の連携をさらに発展させ、未来を共に拓くためである。



また、地域に密着した大学の在り方を求め、北海道の人々に「次世代を担う若者への教育とは何か」を伝え、その責務を共に担うためである。

初日は阿部和加子「藤の実会」会長の司会で、学長挨拶に続き、常盤豊文部科学省官房審議官の祝辞と講演「今後の高等教育の展開」。そして、高祖敏明上智学院理事長の講演「キリシタン時代・再渡来後のカトリック教育－上智大学の場合」、永田淑子本学園理事長の講演「キリスト教再渡来後の北海道におけるカトリック教育－藤女子大学の場合」が実施された。二日目は藤井義博本学副学長の司会のもと、輝道佳明上智大学学務担当副学長の基調講演「求められるグローバル人材教育」。その後、四名のパネリストが加わり、「グローバル人材教育の課題」をテーマに討議された。四名のパネリストは、杉江和男DIC株式会社取締役会長・経済同友会/学校と経営者の交流活動推進委員会委員長、岩崎まさみ北海学園大学国際交流委員長、岡田みさを北星学園大学国際教育センター長、そして三宅理一本学副学長であった。(役職名は2013年度現在)

1905年(明治33年)11月、教皇ピオ10世は、明治天皇への「日露戦争下での満州カトリック教会に対する処遇を謝す」親書捧呈のため、オConnell米国ボストン司教(後に枢機卿)を特使として日本に派遣した。滞在中、首相桂太郎を始め政財界人等から「カトリックの高等教育機関の設置」の要望を受けていた。翌年、情勢を見極めた教皇ピオ10世は、「1549年(天

文18年) 聖フランシスコ・ザビエルが開始し、その百年後の徳川家光治世下での最後のイエズス会員の追放と殉教で、中断していた活動を継続するよう」、イエズス会に要請した。1913年(大正2年)ザビエルが願う総合大学として上智大学が創立された。また1907年(明治40年)、キリシタン時代以来250年ぶりにフランシスコ会員として再来日したのが、「北海道の未来は女子教育にある」とするヴェンセスラウス・キノルド神父(後に札幌司教)であった。

人の思いと決断で織りなされる歴史の潮流のなか、キノルド神父の招請で初来札した殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会によって、女子教育が展開された。現下、藤女子大学が道民の信頼を受け、大学基準協会が評価するのは、藤の建学の理念・教育目的「より豊かな教養、より豊かな人間性、より豊かな国際性の資質を備えた全人的高等教育」の具現化にある。願わくは、昨年度開設の「外国語教育研究センター」の優れた英語教育、「藤らしい特色ある共通・教養科目」の構築、「英語による講義」の開講等、さらなる大学改革により、100周年を迎える2025年には、一割を超える藤の学生達の留学、諸外国からの留学生達の賑いを大いに期待している。それは、確りと大地に根差した藤の女性が、国際社会に益々組み込まれる北海道各地で、国際人として、よりよき人間的諸価値実現のため、中核的な役割を果たすことを願うからである。

藤学園創立90周年記念事業

藤のルーツを学ぶ旅

保育学科 教授 鈴木 眞知子

藤のルーツを学ぶ旅(2012年、2013年と2年連続でクリスマスシーズン)に参加しました。

第1回目の旅では、ミサ前日、バチカン聖堂で偶然にも教皇の講話をうかがう幸運に遭遇しました。イタリア語のお説教の内容を永田理事長が説明してくださいました。その後、永田理事長がツアーメンバーを率いてローマ市内を案内してくださいました。イエローバスを利用して市内の主だった教会巡りをいたしました。壮麗な建築物、教会内の大理石の床、壁にはキリスト受難に関する絵画、柱には使徒の彫



像が並んでいました。ジェズ教会では島原の乱で処刑されたキリシタン殉教者の絵も見ました。信仰に

基づいた宗教芸術の奥の深さに圧倒されました。

コロシアムの近くで昼食を取りました。私がハンカチを床に落としたら床を掃除していたイタリアーノがハンカチを拾い上げてダンスを踊りだしました。すぐ気がついてありがとうと言って手を差し出すと、「ノー、ノーこれは自分のもの」というジェスチャーをして踊り続けるので、私は、指で目から涙が流れているジェスチャーをして哀れっぽく両手を差し出しました。すると彼が、鄭重なお辞儀をしてハンカチを手のひらに乗せてくれました。なんて粋な人達なのだろうと思いました。

クリスマスミサに出席したのち教皇のクリスマス講話をうかがいました。教皇は広場を埋める人々に、数十カ国語で呼びかけられました。イタリアーノと最初にイタリア国民に呼びかけるとイタリアの信徒たちが一斉に国旗を振りながら声をあげ、その声が広場に波のように広がりました。次々と呼びかけられる国の人々も国旗を振りながら嬉しそうでした。感動が私の中でゆっくり広がりました。

翌年2013年のクリスマスミサは、新教皇の講話をうかがいました。新教皇は就任わずか一年で信徒の心を捉え、広場には7万人を超す信徒が集まりました。新教皇は世界中の天災を悼み、救助に当たった方々の功績をねぎらいつつ、世界で今も紛争が続いていることを憂い世界の平和を説かれました。

1回目の訪問の時、ローマで過ごす最後の夜、何人かの有志でスペイン広場のそばにあるショップに出かけることにしました。ところが迷子になりスペイン広場を捜し求めて走り回ることになってしまいました。ようやくたどり着いた広場のそばのショップは閉店でした。



トレヴィの泉

2回目の訪問の時も、同様にトレヴィの泉に出かけました。地図では簡単にいけそうだったトレヴィの泉でしたがまたもや、迷走の挙句辿りつきました。私たちは、再会を期して泉に背を向けてコインを投げました。私は、1回目、2回目とクリスマスイブ、クリスマスをバチカンで過ごすという夢のような時間をいただきました。

アシジは、2回とも深い霧に包まれていました。

立ち込める朝霧の中で聖フランシスコの足跡を辿りました。教会では、彼が回信に至った過程が描かれた壁画や修道士とともに過ごした狭い部屋、小鳥と話されているお姿の銅像を拝見し彼が行った奇蹟の数々を偲びました。夕刻、



聖フランシスコと小鳥

マリア院のアシジ支部を表敬訪問しました。1回目は、その支部の修道女の方々が美しい声で歓迎の歌を歌って下さいました。2回目は、手違いで不在でした。理事長にお願いしてもう少し待つことにし



修道会アシジ支部

ました。夕闇が迫りくる頃、急ぎ足で修道院に向かう修道女の皆さまのお姿を捉えました。感動の再会でした。

思わず目に熱いものがこみあげてきました。

修道会本部があるテュイネでは、夜にもかかわらず、温かいお茶や食事が私たちを待っていました。一息入れて、翌朝、ミサに出席しました。礼拝堂のキリスト像を拝見して雷に打たれたような衝撃を受けました。世界平和の祈りを発信するお姿を拝見し、私はそのとき神の存在を強く意識しました。

ツアーの終りに、クサベラ・レーメ先生のご実家を訪問しました。1回目はお留守でした。2回目は、ご実家を継がれた兄の孫のレーメ夫妻が、本当に温かく迎えて下さいました。レーメさんが村人に私たちの訪問を伝えてくださった



レーメ夫妻

クサベラ・レーメ先生ご実家

らしく、村人が私たちのために歓迎の歌を歌って下さいました。ご実家の居間で大切に保管されていたクサベラ先生の分厚いアルバムや思い出の品々を見せていただき、美味しいお茶とクッキー、シュトレンをふるまっていただきました。

この2回の旅で、遠い札幌の地にクサベラ先生たちが愛と信仰の種を播かれ命をかけて実践された実が現在の藤学園なのだと実感いたしました。まさにルーツを辿り学ぶ旅でした。

新 任 教 職 員 紹 介



着任にあたって

日本語・日本文学科 准教授 水口 幹記

4月より日本語・日本文学科にて、日本古代文学の授業を担当しております。私は「古代文学作品や古代文化を異文化として見る・考える」をテーマに授業を行っております。学生たちにも〈異文化〉とは決して国と国との問題だけではないのだということを授業や文学作品の読解を通じて知り、異文化世界の探究を進めていってほしいと思っています。至らぬところもありますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



女性に政治的コミュカを!

文化総合学科 講師 勝西 良典

文化総合学科で、西洋近世・近代を中心とした哲学、倫理学系科目を担当しております。カントの思想、西洋思想史、哲学的人間学、ビジネス倫理学が専門です。

京都駅裏生まれ、新宿育ちの身空ですが、札幌寒仕込みで心身ともに贅肉をそぎ落とし、清涼感のある人間になりたいと切に切に願っております。

本学では、女性の政治的コミュニケーション能力の向上に寄与できるよう精進いたしますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



着任にあたって

保育学科 教授 小川 恭子

4月より保育学科で主に子どもの福祉に関する科目を担当しております。前任校である鎌倉女子大学でも本学同様に子どもに関わる専門職者の養成に携わっておりました。保育と教育の総合的な提供、親・家族への支援、地域環境づくりの担い手等、保育・教育現場への期待はますます高まりをみせています。そういった時代のニーズに対応できる学生が育つように、学生とともに歩んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



十年振りに戻ってきました!

食物栄養学科 助手 松井 のり子

4月より、食物栄養学科助手として、花川キャンパスにて勤務しております。ちょうど10年前、同学科を卒業し、食品会社で品質管理課に所属し、主に生乳や乳製品の検査の仕事をしておりました。

今回、思いがけず助手として藤へ戻る機会を与えられ、懐かしい校舎で勤務することができ、嬉しく思っております。

何かと戸惑うことも多い中、学科の先生方をはじめ、多くの教職員の方々に様々なご指導をいただき、不安な気持ちが溶けていくようで、感謝の日々です。

民間企業での経験も生かし、できる限り学生さんたちのサポートをしていけるよう頑張りますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



大切なもの

国際交流センター 職員 種川 真希子

5月1日から国際交流センターに勤務させて頂いております。卒業後は東京の外資系会社で働きこの春から札幌に戻りました。欧米、アジア圏の人々とも共働してきましたが、学んだ事はチームの力を発揮していくには藤学園で徹底的に学んだ、個人の尊厳を大事にすること、意見を尊重しあう信頼の土台が不可欠だということです。この大切な価値観を伝えてゆく一助になってゆければ幸いです。どうぞ宜しくお願いします。

各科短信

〈入学式集合写真〉

文学部

◇英語文化学科

● 3月に卒業した学生から、全員に英語5,000語以上での卒業論文が課されています。文学系5名、英語学系23名、総合研究系16名、コミュニケーション系33名、合計77名が卒業論文を提出しました。大学ホームページにて卒業研究題目を紹介しております。

● 2013年度の「リボリア賞」(卒業論文最優秀賞) 受賞者として、榎本茜さんが選ばれました。受賞理由および卒論要旨は大学ホームページをご覧ください。

● 2014年2月に、英語文化学科がNPO法人「小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)」の認定団体として登録されました。昨年度から「児童英語プログラム」



を開始し、昨年8月には幼稚園・保育園年長児から小学6年生までを対象にした英語教室“Let's Enjoy English”を開きました。今年も8月7日・8日に開催します。申込方法・参加費などの詳細は大学HPでご案内しております。多くのご参加お待ちしております。

(助手 坂本 朋子)

◇日本語・日本文学科

● 新入生歓迎会を4月11日V講時、学生食堂にて開催しました。日本語・日本文学会学生運営委員の2～4年生も会場設営などを手伝ってくれました。今年の1年生は突然マイクを向けられても物怖じをせず、元気の良い印象です。

● 『藤女子大学国文学雑誌』90号発行(3月31日)。

● 『藤女子大学日本語・日本文学会会報』98号発行(6月15日)。

● 2014年度藤女子大学日本語・日本文学会総会および研究発表会を6月28日(土)13:00より16条キャンパス355教室にて開催します。研究発表は新任の水口



幹記准教授「弘仁の日本書紀講書と文章経国思想」と平田英夫教授「伊勢的なものと熊野的なもの一西行と宗教文芸の転換—」です。皆さまのご来聴をお待ちしています。

(助手 濱崎 睦)

◇文化総合学科

● 3月 『文化総合学科 卒業研究論文・要旨集 第11号』発行。各ゼミの卒業生によるコメント「卒論を書き終えて」を、学科HPに掲載しています。

● 4月16日～17日、花川セミナーハウスで新入生宿泊研修を実施。2日間の研修を通して親睦を深めました。

● 5月14日、基礎演習の一環として北海道立近代美術館を訪問。「ミュシャ展」を鑑賞しました。

● 異文化コミュニケーションゼミ(担当:伊藤明美教授)の学生達が、山崎製パンとコラボして新商品開発に携わっています。

● 8月5日～9日に行われる集中講義は、平藤喜久



子准教授(國學院大學)をお招きし「神話論」を講義していただきます。

● 10月 北16条キャンパス藤陽祭に合わせ、「文化総合学科公開講演会」を開催予定です。

(助手 鎌田 留美子)

人間生活学部

◇人間生活学科

●2013年度の卒業研究ポスター発表・コンテストには、36点の応募がありました。審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞2点が選ばれ、3月20日の学位記授与式終了後に入賞者3名が表彰されました。

●4月、新入生を迎え、11日～12日に在学学生、教職員、学習支援員も参加して恒例の宿泊研修が行われ、会食や交流などの時間を通して互いに親睦を深めることができました。

●本学科主催の第16回藤女子大学家庭科教育研修講座は、7月27日に花川キャンパスで開催する予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

※人間生活学科では、2013年8月にFacebookページを開設しました。

日常の様子から、授業風景、さまざまな取り組みやイベントなどについて写真付きで紹介しております。検索サイトで「人間生活学科fb」と入力すると検索



結果画面の一番上に本学科のページが表示されます。どなたでもご覧になれますので、是非アクセスしてみてください。



人間生活学科 Facebook (フェイスブック)
URL、QRコードからもアクセスできます。



<https://www.facebook.com/pages/藤女子大学人間生活学科/286114901449663>

(助手 坪田 由香子)

◇食物栄養学科

●4月に新入生を迎え、4月3日～4日にかけて藤学園セミナーハウスで合宿が行われました。また、今年度より基礎ゼミがスタートし、少人数単位なので、今まで以上に自分の不安や悩みを教員に相談しやすくなりました。

●2年生はより専門的な科目も増え、管理栄養士を目指して奮闘しています。

●3年生は臨地実習に向けて準備が始まっています。今年から給食経営管理実習Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅱ、公衆栄養学実習の3分野より2領域を選択して実習に臨みます。

●4年生は就職活動や管理栄養士国家試験対策に日々取り組んでいます。卒業研究もはじまり、様々



な場で活動しています。

●今まで行っていた研修交流会が体制を改めて「同窓生の集い」に生まれ変わります。多くの卒業生の皆様の参加をお待ちしております。

(助手 佐々木はるみ)

◇保育学科

●今年も新入生を迎え学生たちの賑やかな声が飛び交うようになりました。先日新1年生の交流を深める目的で1泊2日の合宿を行い、スポーツ大会で汗を流し、夜は学生たちが企画したレクリエーションを楽しみました。そして2～4年生は幼稚園、保育所、福祉施設、特別支援学校の実習にむけ事前指導を受け、これまで学習してきたことが実践で生かせるよう、更に学習を深めています。また今年3月に行われた海外短期研修(セント・エリザベス大学)の報告会が5月に開かれました。海外や留学に興味のある学生たちが集まり異文化交流の話に瞳を輝かせながら耳を傾けていました。今年度も保育学科では一



般市民にも呼びかけ、特別講師をお呼びして講義をして頂く「公開講座」や「リカレント講座」の開講を予定しております。

(助手 濱岡 歌子)

大 学 院

◇人間生活学研究科

大学院人間生活学研究科では
男性も学んでいます!!

●本年度、大学院では女性 5 人・男性 2 人の新入院生を迎えました。男性は二人ともに社会人で、発達途上国の生活と貧困克服を研究テーマとする方とスポーツと栄養の研究を深めつつ管理栄養士資格取得をめざす方です。大学院は男女共学なので、男性も学びやすいように施設・設備は整えられていますが、廊下を歩いても女性ばかりの学内では、とくに食堂や購買利用の際には気おくれがするようです。遠慮なく研究に励んでいただけたらと思っています。ま

た本研究科では、社会人の方々も学びやすいような時間割（夕刻からの講義や16条校舎での演習等）や長期履修制度（3年もしくは4年で修了）を設けています。学部を卒業してすぐの院生達は、社会人の方々から大人としての判断や行動の仕方を学びつつ、相互に有意義な大学院生活を送っています。

（研究科長 飯村 しのぶ）



退 任 の あ い さ つ

藤女子大学での14年間

英語文化学科 教授 大石 悦子



14年前、私が藤女子大学に着任したのは、文学部・人間生活学部が3学科の新体制になり、21世紀に向けて大学が新たな一步を踏み出そうとしていた時でした。実際、数年後には、「研究・教育の活性化」を目指した国際交流センターができ、日本語教員養成課程が開設され、藤女子大学は国際化に向かって歩み始めました。

教育を始めてみると、学生達はそれまでの教養

教育のいい部分を身につけていました。英語でまとまったものを書かせると、少し文学センスのある素直ないい英文を書きました。ただ教員の言う事を全て真に受けるような、未知なるものに足を踏み入れないようなところがあり、国際社会で通用する学生を育てる教育をしたいと思って14年間取り組んできました。

大学を取り巻く状況は厳しくなりましたが、大学の未来はその教育と研究がもたらす可能性にあり、Sr.クサベラ・レーメを始めとする先達はそれを信じ、後の者に残してくれたのだと思います。

よ 好き出合いの日々

文化総合学科 教授 榎瀧 弘市



私は1990年の春、藤女子短期大学に赴任しました。東西冷戦の象徴であったベルリンの壁が崩壊し、ヨーロッパのみならず世界中で自由と共存の気運が高まった頃のことです。

赴任当初は教養教育を担う一般教育の一員として、短大の倫理学と大学の思想史を、2000年の改組転換後は文化総合学科の一員として、哲学と倫理学を担当して来ました。教育の重要性和難しさ

を日々痛感する24年間でした。

学生たちは何時の日も変わることなく、愛を信じ、真理とは何かを問い、善とは何かを考究します。青春の苦悩と躍動を心に、どの学生も幸せで誇らかな人生を歩んで行ってくれることを願わずには居れません。

静かに思い返しますに、召されて今も大勢の人たちに慕われておられる近野巨神父さまを始め、学生からOG、教職員の仲間まで、多くの好き出合いに恵まれました。感謝に堪えません。藤女子大学が若い人たちの希望と勇気と生きる力の抛り処でありますよう、心より祈念致します。

保育者養成に携わって

保育学科 教授 後藤 昌彦



32年という長い間、保育者養成にかかわりながら教員生活を送ることができたことは幸いでした。年々、子どもを取り巻く環境の問題が指摘されておりました。核家族化の進行、疎遠な地域・近隣関係に伴う家族の孤立化は、共働き家庭の一般化と相まって家庭の子育て機能の低下をきたし、保

護者の育児への負担感や拘束感を増大させてきました。このような状況下において、保育学科は従来の乳幼児・児童に対するケア・ワーカー的な役割を果たすだけではなく、家庭・地域社会に積極的に働きかけていくことのできる専門的知識・技術を有する保育者を養成することを目指してきました。

今後とも幼稚園、保育園において子どもの豊かな心を育むとともに、家庭や地域社会における子ども問題に適切に対応できる保育者を養成する教育機関であり続けてほしいと願っています。

「ありがとうございました」

国際交流センター 職員 高橋 由香

皆様のご指導、ご支援のもと、母校で過ごせたことに深く感謝申し上げます。

大変お世話になりました。ありがとうございました。



英語文化学科 教授 平松 哲司



日本語・日本文学科 教授 丸山 隆司



食物栄養学科 助手 富塚 琴美



以上の教職員の方々が退職されました。

ご指導に心より感謝いたします。



訃報

謹んでお悔やみをお祈りいたします



元図書館職員 鈴木 高明様

平成25年12月25日ご逝去 83歳。運輸省札幌鉄道局図書館、J.O.C.カトリック青年労働者連盟会長、ファッションドレスメーカー女学院事務長を務められた後、昭和45年7月より藤女子大学図書館に勤務。平成11年6月退職。いつも穏やかな笑顔が印象的な、物静かな、やさしいお人柄でした。



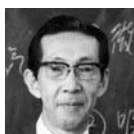
元藤女子大学 教授 星野 喜久三様

平成26年2月12日ご逝去 84歳。北海道学芸大学釧路分校助教授、北海道教育大学釧路分校教授、北海道教育大学附属中学校校長(併任)等を務められた後、平成5年4月より藤女子大学教授として学生の指導に尽くされ、平成12年3月退職。人間生活学科開設当時から心理学をご担当。穏やかなお人柄でしたが、反面、料理包丁を研ぐのが極めてお上手とのことでお世話になった教員もおりました。大学内ではいつもこやかに微笑んで学生に対応していらっしゃったお姿が目につきます。



元藤学園 セミナーハウス館長 Sr.M. フィデリス 柴田 かほる様

平成26年4月4日ご帰天 89歳。昭和29年6月～昭和49年9月まで藤女子短期大学事務室に勤務。その後、藤学園旭川寄宿舍舎監、札幌マリア院院長、殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会日本管区副管区長、藤学園札幌寄宿舍舎副舎監を務められ、平成8年11月藤学園セミナーハウス館長として学生のためにご尽力頂き、平成12年3月退職。大変明るくどこでもその場の雰囲気明るくすることができる太陽のような方でした。



元藤女子短期大学 教授 福士 敏雄様

平成26年4月25日ご逝去 90歳。北海道立食糧研究所勤務の後、昭和35年4月より藤女子短期大学非常勤講師、昭和54年4月より藤女子短期大学教授として学生の指導に尽くされ、平成元年3月退職。温厚なお人柄の中にも、ユーモアセンス溢れる、やさしい先生でした。

学内ニュース

学位記授与式・入学式

3月20日(木) 本学講堂に於いて2013年度学位記授与式が挙行され、学部生529名(文学部268名、人間生活学部261名)、大学院生5名、総勢534名が学びを終え巣立っていきました。卒業記念として、喜田勲学長からメッセージカード「卒業されるあなたへ」と、大学から北海道のチーズやイチゴのコンフィチュールなどを使用した「特製バイクド・チーズケーキ」が贈られました。

4月2日(水)には2014年度入学式が挙行され、学部・大学院合わせて582名の新入生を迎えました。

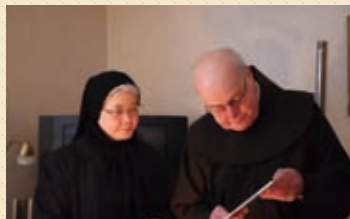
当日は、暖かな日ざしに恵まれ、多数のご家族の方々にご臨席いただき、新入生の新たなスタートを祝う華やかな雰囲気の中かで式が行われました。式の終了後には、永田淑子理事長より「藤の歩み」と題した講話があり、本学の母体となる「殉教者ゲオルギオのフランシスコ修道会」誕生に始まり、現在に至るまでの藤学園の歴史についてお話がありました。



喜田学長からのメッセージカード
「卒業されるあなたへ」

学園創立90周年記念事業 「藤のルーツを学ぶ旅」

「藤のルーツを学ぶ旅」は、クリスマスの季節と夏休みとに、理事長を団長に10数名の教職員と卒業生



などが、ドイツ・イタリアの学園ゆかりの地を訪問する10日間程のツアーです。その第1回目は2012年のクリスマス・シーズンに行われました。

その後半年ごとに第2回目(2013年8月上旬)、第3回目(2013年クリスマスの季節)が行われ、現在まで延べ54人の参加者があります。ドイツでの主な訪問先は、その北西部の小村テュイネにある学園設立母体のムッターハウス(殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会本部)とその近隣の関連施設(職業訓練学校、病院、認知症ケアホーム)、そしてテュイネに近いオスナブリュックの職業専門学校や養豚農家であるSr.クサベラ・レーメ先生の生家などでした。イタリアでは、中世の面影が漂うアジジに聖フランシスコの足跡を辿り、ローマではカトリックの総本山バチカンの聖ペトロ大聖堂、城外のパウロ大聖堂を含むローマの4大バジリカなどを訪問しました。

今年もまた夏とクリスマスの季節には、第4回目



(2014年8月20日～30日)、第5回目(2014年12月20日～30日)の、アジジ・ローマ・テュイネを巡る「藤のルーツを学ぶ旅」が企画されています。

「藤のルーツを学ぶ旅」は、学園の中・高・大の教職員と卒業生とその家族とが、学園のルーツを訪問することで初めて実感する内面的な旅となり、アジジやローマなど興味のない街並み雰囲気そして土地の食を味わって経験となり、それぞ



れ藤ファミリーが旅の食卓を囲んで楽しく語り合うかけがえのないひとときになります。

学校法人藤学園 藤女子大学 2013年度 決算諸表

2013年度 資金収支計算書

(単位：千円)

科目	大学 前年度	大学 決算額	法人 決算額
学生生徒等納付金収入	2,118,399	2,098,067	2,890,078
手数料収入	45,024	43,510	56,533
寄付金収入	13,897	17,724	80,047
補助金収入	211,817	190,257	1,009,380
資産運用収入	28,027	19,029	38,481
資産売却収入	281,950	1,772,008	1,772,008
事業収入	939	1,189	22,709
雑収入	115,347	109,620	144,261
前受金収入	693,959	797,607	898,134
その他の収入	1,661,266	1,080,723	2,113,747
資産収入調整勘定	△ 752,462	△ 789,765	△ 929,791
前年度繰越支払資金	1,280,396	1,390,877	2,467,869
収入の部 合計	5,698,559	6,730,846	10,563,456

人件費支出	1,538,884	1,567,594	2,932,741
教育研究費支出	386,492	413,055	648,693
管理経費支出	97,698	102,153	186,348
借入金等利息支出	3,245	2,857	2,857
借入金等返済支出	122,210	22,210	22,210
施設関係支出	16,687	146,786	164,219
設備関係支出	68,427	147,259	175,198
資産運用支出	2,035,869	2,784,148	3,794,445
その他の支出	60,840	61,357	80,471
資金支出調整勘定	△ 22,670	△ 22,781	△ 73,142
次年度繰越支払資金	1,390,877	1,506,208	2,629,416
支出の部 合計	5,698,559	6,730,846	10,563,456

2013年度末 貸借対照表

(単位：千円)

科目	法人 前年度	法人 決算額
固定資産	18,563,151	18,468,589
有形固定資産	11,802,933	11,572,592
その他の固定資産	6,760,218	6,895,997
流動資産	2,816,804	2,971,708
資産の部 合計	21,379,955	21,440,297
固定負債	1,000,989	981,337
流動負債	943,818	1,075,287
負債の部 合計	1,944,807	2,056,624
基本金の部 合計	20,861,460	21,123,043
消費収支差額の部 合計	△ 1,426,311	△ 1,739,370
負債、基本金、消費収支差額の部 合計	21,379,956	21,440,297

2013年度 消費収支計算書

(単位：千円)

科目	大学 前年度	大学 決算額	法人 決算額
学生生徒等納付金	2,118,399	2,098,067	2,890,078
手数料	45,024	43,510	56,533
寄付金	14,890	19,008	84,090
補助金	211,817	190,257	1,009,380
資産運用収入	28,026	19,029	38,481
資産売却差額	2,050	2,008	2,008
事業収入	939	1,189	22,980
雑収入	115,347	109,620	144,261
帰属収入 合計	2,536,492	2,482,688	4,247,811
基本金 組入額	△ 189,860	△ 294,451	△ 315,227
基本収入の部 合計	2,346,632	2,188,237	3,932,584

人件費	1,507,224	1,556,000	2,935,156
教育研究経費	600,273	656,568	1,086,194
管理経費	123,928	121,172	229,816
借入金等利息	3,245	2,856	2,857
資産処分差額等	6,455	7,449	45,264
消費支出の部 合計	2,241,125	2,344,045	4,299,287
当年度消費収支超過額	105,507	△ 155,808	△ 366,703

藤女子大学 2013年度決算の概要

収入の部では、学生現員数の変動等により学生生徒等納付金、経常費補助金等が減少したほか、資産運用収入も銀行預金金利の低迷の影響で減少しました。これらの結果、帰属収入は2482百万円となり、前年度比53百万円の減となりました。

施設・設備については、ポータルシステムを導入して教務・学生生活・就職に係る情報を一本化するともに、北16条・花川両キャンパスに合計121台の学生用パソコンを自習室および校内各所に配置し、アクセス可能な環境を整備しました。また、教育研究用として北16条キャンパスに隣接した土地・建物を取得しました。このほか図書資産などの増加を併せると、本年度の基本金組入額は294百万円となりました。

支出の部では、人件費は退職金および退職給与引当金への組入額が増加したことなどにより、前年度比48百万円ほど増加しました。また、教育研究経費はシステム更新にともなう物件費と手数料の増加により同56百万円の増となりましたが、管理経費はほぼ前年度並みとなっています。これらの結果、本年度の消費支出合計は2344百万円となり、前年度比103百万円の増となりました。

2013年度は特に施設・設備の充実をはかったこともあり、結果単年度収支としては155百万円の支出超過となりました。

2014年 (平成26年度) 度入試報告

■藤女子大学総計

学部	学科	募集	出願	受験	合格	入学
文学部	英語文化学科	80	464	457	221	99
	日本語・日本文学科	80	280	276	217	93
	文化総合学科	80	364	363	217	100
	計	240	1108	1096	655	292
人間生活学部	人間生活学科	80	326	319	303	90
	食物栄養学科	80	363	356	240	103
	保育学科	80	275	271	155	90
	計	240	964	946	698	283
合計		480	2072	2042	1353	575

□一般入学試験 (A日程) ※試験1日目・2日目合計

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	英語文化学科	44	284	277	120
	日本語・日本文学科	37	140	139	108
	文化総合学科	36	243	242	144
	計	117	667	658	372
人間生活学部	人間生活学科	30	122	115	109
	食物栄養学科	32	187	180	91
	保育学科	38	159	155	78
	計	100	468	450	278
合計		217	1135	1108	650

□一般入学試験 (B日程)

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	日本語・日本文学科	10	21	18	13

□大学入試センター試験利用入学試験 (A日程)

学部	学科	募集	出願	合格
文学部	英語文化学科	5	127	62
	日本語・日本文学科	5	82	65
	文化総合学科	4	68	30
	計	14	277	157
人間生活学部	人間生活学科	10	161	153
	食物栄養学科	14	144	119
	保育学科	3	70	38
	計	27	375	310
合計		41	652	467

□大学入試センター試験利用入学試験 (B日程)

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	英語文化学科	3	18		11
	日本語・日本文学科	3	16		12
	文化総合学科	4	21		11
	計	10	55		34
人間生活学部	人間生活学科	3	18		16
	食物栄養学科	2	4		2
	保育学科	2	1		1
	計	7	23		19
合計		17	78		53

□公募推薦入学試験 (A日程)

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	英語文化学科	15	31	31	24
	日本語・日本文学科	15	18	18	16
	文化総合学科	20	21	21	21
	計	50	70	70	61
人間生活学部	人間生活学科	24	16	16	16
	食物栄養学科	16	18	18	18
	保育学科	25	37	37	30
	計	65	71	71	64
合計		115	141	141	125

□その他、藤学園系列高等学校との間に姉妹校推薦入学試験、カトリック協定高等学校との間にカトリック校推薦入学試験があります。

□社会人入学試験

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	英語文化学科	若干名	0	0	0
	日本語・日本文学科	若干名	0	0	0
	文化総合学科	若干名	0	0	0
	計		0	0	0
人間生活学部	人間生活学科	若干名	0	0	0
	食物栄養学科	若干名	1	1	1
	保育学科	若干名	0	0	0
	計		1	1	1
合計			1	1	1

□藤女子大学大学院

研究科	専攻	募集	出願	受験	合格
人間生活学研究科	人間生活専攻	8	3	3	3
	食物栄養専攻	8	5	5	5
	合計		16	8	8

2013年度 藤女子大学・大学院 進路就職状況

〈大学〉

2014年5月1日現在

	卒業 者数 ※1	卒業後の進路						
		進学		就職		その他 ※2		
		希望数	決定数	希望数	決定数		就職率	
文 学 部	英語文化学科	83	5	5	69	66	95.7%	9
	日本語・日本文学科	100	1	1	85	70	82.4%	14
	文化総合学科	88	3	3	80	71	88.8%	5
	小計	271	9	9	234	207	88.5%	28
人 間 生 活 学 部	人間生活学科	81	3	2	69	59	85.5%	9
	食物栄養学科	105	5	5	97	76	78.4%	3
	保育学科	76	2	2	74	74	100.0%	0
	小計	262	10	9	240	209	87.1%	12
	総計	533	19	18	474	416	87.8%	40

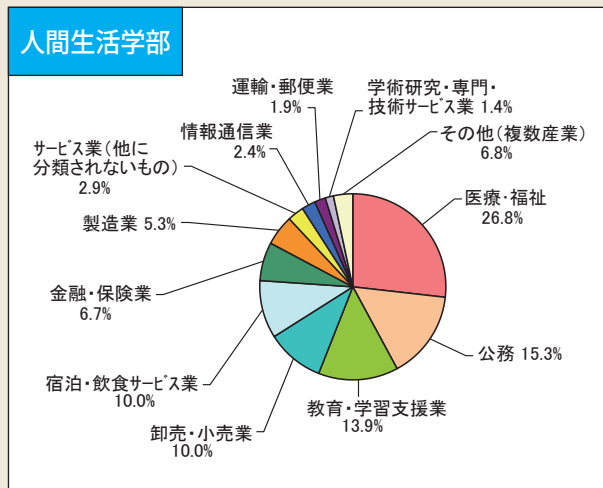
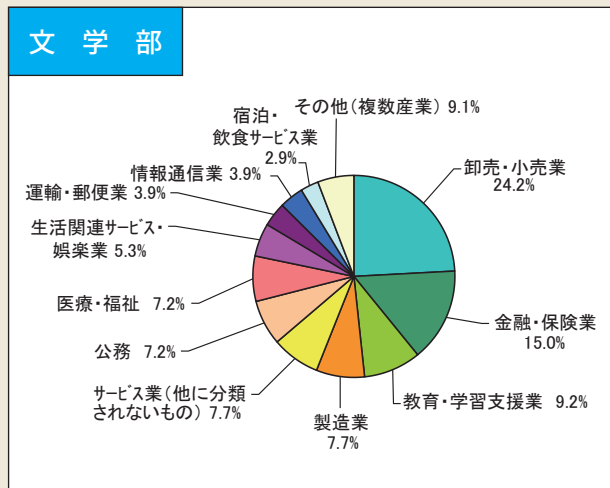
		就職先内訳							
		企業等		専門職(福祉・栄養・保育)		教員		公務員	
		希望数	決定数	希望数	決定数	希望数	決定数	希望数	決定数
文 学 部	英語文化学科	66	63	—	—	1	1	2	2
	日本語・日本文学科	64	51	—	—	8	7	13	12
	文化総合学科	77	69	—	—	1	1	2	1
	小計	207	183	—	—	10	9	17	15
人 間 生 活 学 部	人間生活学科	47	39	9	8	7	7	6	5
	食物栄養学科	31	26	55	40	2	2	9	8
	保育学科	11	11	27	27	17	17	19	19
	小計	89	76	91	75	26	26	34	32
	総計	296	259	91	75	36	35	51	47

※1：年度途中の卒業者を含む。※2：主婦・社会人入学者を含む。



食物栄養学科のデータは途中経過報告としてご覧ください。5月上旬の管理栄養士国家試験合格発表後に専門職として就職する者が多く、今後も就職決定数が増えます。最終的な進路決定状況は、本学HPに掲載する2014年10月末現在のデータをご覧ください。

〈就職先産業別比率〉



〈大学院〉

人間生活学研究科	修了 者数	修了後の進路				
		進学		就職※		その他
		希望数	決定数	希望数	決定数	
人間生活学専攻	3	0	0	3	2	0
食物栄養学専攻	2	0	0	2	2	0
総計	5	0	0	5	4	0

人間生活学研究科	就職先内訳							
	企業等		専門職(福祉・栄養)		教員		公務員	
	希望数	決定数	希望数	決定数	希望数	決定数	希望数	決定数
人間生活学専攻	1	0	0	0	2	2	0	0
食物栄養学専攻	2	2	0	0	0	0	0	0
総計	3	2	0	0	2	2	0	0

※社会人(職場復帰)を含む。

2013年度は、保育学科が2年連続で就職決定率100%を達成する素晴らしい結果となりました。

企業就職では、景気回復等による就職状況の改善が報じられた年でしたが、大手企業が激戦であることに変わりはなく、厳選採用は続いているとされます。

本学でも、納得のいく就職活動ができたと思われる学生の多くは、語るに足る学生時代の努力と成長の経験を持ち、社会との接点や積極的な就職活動等を通じ、学生から社会人への意識転換ができています。公務員、教員希望者も、早くから進路を定め、地道に試験対策に取り組む学生が希望を叶える傾向は明らかです。

2016年3月卒業予定者(現3年生)の就職活動から、企業の採用スケジュールが後ろ倒しされますが、選考開始後は短期決戦となる厳しさがあり、従来以上に完成度の高い準備で臨む必要があります。早期取り組みの必要性を学生に伝え、支援充実努めてまいります。

大学へのご支援ありがとうございます

藤女子大学の寄付募金活動は、みなさまの温かいご支援により、2012年度からの累計が2,900万円に達しました。寄付募集につきまして深いご理解とご協力を心よりお礼申し上げ、ここに感謝の意を表しご芳名を掲載させていただきます。

寄付者ご芳名 (第4回) 期間 2013年10月1日～2014年3月31日 (敬称略・お申込み順)

<保護者> 弓野 雅一 船切 信行 三谷 耕 三上 那男 伊藤 里美 匿名 6名 計 11名	<卒業生> 松原智津子 阿部和加子 小川 弘子 森元 芳枝 竹内 早苗 板敷 広子 水野恵理子 中野 洋子 仁木 史江 田中 香子	長多 和子 斎藤由佳里 清水 公子 三上 謡子 沼本かおる 平野真智子 山根 純子 松山 邦子 中村 悦子 青木 恵子	堀井 令枝 菊地 久子 鈴木 由美 杉本 博子 山田久美子 安藤 栄子 加川 恵子 神野 一恵 石崎美奈子 寺田 容子	松岡 博子 栗原ふさ子 藤井 典子 武田 欣子 近藤真知子 斎藤 弘子 岩崎 睦子 田中 捷子 佐川 秀子 中西 順子	山口 博子 根本 祐子 阿部 洋子 松岡 敏子 星野 恵子 川崎 桃子 川見 智子 斎藤美年子 田中 宏子 匿名 33名 計 82名	<職員・職員> 長谷部 清 匿名 4名 計 5名	<その他、法人等> (医) 阿部小児科医院 カトリック札幌司教区 匿名 1名 計 3名
--	--	--	--	--	--	--	--

<教職員・役員>
田口 恭子
木村 晶子
匿名 2名
計 4名

計 105件
3,263,757円

寄付実績・用途のご報告

2013年度寄付受入 実績報告 (2013年4月～2014年3月)

総計 227件 17,413,757円

2013年度寄付金総額17,413,757円のうち、3,550,000円をキノルド司教記念奨学金の積立金へ、13,863,757円を施設拡充積立金へ組入れることといたします。施設拡充積立金を使用する際には、別途ご報告いたします。

内訳		
保護者	101名	2,100,000円
卒業生	90名	2,208,000円
旧教職員、旧役員	17名	790,000円
教職員、役員	10名	1,025,757円
その他	9名	11,290,000円

ご寄付のお願い

藤女子大学は、財政基盤をより強化して教育研究環境の整備と学生支援体制のさらなる充実を図り、創立の精神に基づいて女性の育成に努めてまいります。今後とも、ご支援をいただければ幸いです。

【募資金額】

個人……………1口1万円 (なるべく2口以上のご協力をお願いしておりますが、金額にかかわらず有り難くお受けいたします)
法人・団体……金額は特に定めておりませんが、格別のご協力をお願いいたします。

【お申込み・払込み方法】

寄付申込書をご送付の後、お近くの郵便局・銀行から下記口座宛にお振り込みください。なお、本学専用の払込用紙で郵便局から払込手続きをされますと、手数料は無料になります。寄付申込書・払込用紙等をご入り用の際は、本学寄付金募集窓口にご連絡ください。

- 郵便局 振替口座 02780-7-50398 藤女子大学
- 銀行 北洋銀行 北七条支店 (普) 3989004 藤女子大学 募金口
- 北海道銀行 札幌駅北口支店 (普) 1185721 藤女子大学 募金口
- 三菱東京UFJ銀行 札幌支店 (普) 4021677 学) 藤学園 藤女子大学

【記念品について】

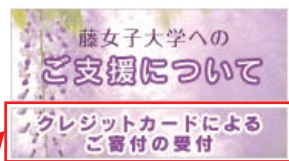
1回につき2口以上ご寄付をいただいた方には、「藤」の名を入れた記念品を贈呈いたします。

【税制上の優遇措置】

藤女子大学へのご寄付につきましては、「所得控除」制度か、「税額控除」制度のどちらかの適用を受けることができます。税額控除制度では、所得税率に関係なく寄付金の約40%が所得税額から直接控除されます (ただし所得税額の25%が限度)。確定申告の際に、寄付者ご自身においてどちらか一方の制度をご選択ください。

【クレジットカードによるご寄付】

インターネットからのクレジットカード決済もご利用いただけます。本学ホームページのトップ画面右側「クレジットカードによるご寄付の受付」バナーよりお手続きください。



会計課寄付金募集窓口
TEL: 011-736-5044 FAX: 011-736-5230
E-mail: kaikei@fujijoshi.ac.jp URL: http://www.fujijoshi.ac.jp

今年も「自炊入門」が開催されました

去る 4 月 12 日に第 11 回自炊入門を開催いたしましたのでご報告いたします。

今から 10 年ほど前、学生部の先生が学生の食生活を懸念して保健センターに相談にみえたことで、この「自炊入門」は始まりました。検討の末、大学入学を機に一人暮らしを始めた、自炊には自信がない新生を対象とした料理教室「自炊入門」が計画され学生部の協賛を得て、毎年 4 月の中旬に開催されることになりました。



当日の献立は、摂りにくいといわれる野菜が沢山の肉じゃがが主菜、副菜は乾物を使ったひじきサラダ、乳製品としてヨーグルトサラダです。ちなみに開催当初、主菜は札幌発で話題のスープカレーでした。

講師を引き受けてくださった食物栄養学科の菊地先生と人間生活学科の岡崎先生のわかりやすい説明、丁寧なデモは学生ならずとも大変勉強になります。

今年は 9 班に分かれ、1 年生が 3 ~ 4 人ずつ、ボランティアとして食物栄養学科の上級生が 1 名、それに教職員 1 名が加わり 5 ~ 6 名が一班です。限られた時間の中、1 年生は懸命に、調理器具と格闘？食物栄養学科上級生のさすがの指導や気配

りの中、献立が次々と出来上がっていきます。

今回、札幌市食育学生ボランティア(栄養士の卵)からのメッセージ「毎日食べよう朝ごはん」「牛乳・乳製品きちんと食べてる？」というパンフレットを 2 種類配布。これは、札幌市保健所が監修となって食育ボランティアと共に作成したパンフレットであり、今回は作成者であった K.N さん(食物栄養学科 4 年生)が直接説明をしてくれて新生の心に優しく伝わりました。このパンフレットは花川キャンパス 1 階、調理室廊下の壁に掲示されていますので、皆さんどうぞご覧ください。



今年の参加は総勢 43 名、2 時間半という短い時間でしたが「自炊入門」のもう一つの目的である楽しい交流もできました。ご協力くださいました皆様に感謝いたします。

(文責 保健センター 中村 信子)



2013 年度 表彰式

2013 年度の学生部長賞が決定し、4 月 5 日の新歓フェスティバルで学生部長より下記団体が表彰されました。おめでとうございます。



学生部長賞

◆国際交流クラブ「なでしこ」

新たな活動へのチャレンジとその活動の成功が評価されました。

◆弓道部

目標を決め日々練習し団体Ⅲ部優勝、Ⅱ部への昇格を果たしたことが評価されました。

学生部長特別奨励賞

◇ラクロス部

第 19 回北海道学生ラクロスリーグ戦で準優勝したことが評価されました。

入賞の記録

2014.6 現在

▲平成 25 年度「学校茶道エッセイ」(2014/2/27)

学生の部 第一席：茶道部(2 名) / 学生の部 佳作：茶道部(2 名)

▲第 41 回レシテーションコンテスト(2014/5/25)

ポエトリー部門 第 2 位：ESS

国際交流 だより センター



海外協定校留学・短期プログラム派遣報告・予定

2013年度は、全88名の学生が本学のプログラム・授業で海外に渡航しました。派遣した学生たちからは、「語学力の向上だけでなく、実際に海外で生活してみることで自分に自信が持てるようになった。」といった感想が寄せられています。今後もより多くの学生に海外で学ぶ機会を提供するため、プログラムの新設等、留学プログラムの充実を図ってゆきます。



◆海外協定校留学【1年間（2学期間）】

	2013年度 派遣実績	2014年度 派遣予定	2015年度派遣 募集期間
アメリカ	1	2	2014年11月～12月
イギリス	3	3	2014年6月～9月
オーストラリア	4	5	2014年6月～9月
韓国	5	3	2014年4月～6月
台湾	2	1	2014年11月～12月
計(名)	15	14	

◆海外短期プログラム【1～5週間】

2013年度、73名の学生がオーストラリア、イギリス、韓国、台湾、フィリピンでの短期プログラム・授業に参加しました。夏休み派遣分は4～5月、春休み派遣分は10～11月に参加学生を募集します。



海外協定校受入留学生紹介

2014年度は、韓国・台湾から1年間の交換留学生4名を受け入れています。留学中は、日本語を学びながら本学学生と一緒に授業を受講したり、学内行事や小旅行等を通じて交流するほか、部活・サークル活動に参加するなどして楽しく過ごしています。

4月からの札幌での生活について、留学生がこれまでに感じたことをご紹介します。



Q. 部活・サークルには入りましたか？

A. 韓国ではあまり書道をする機会がなく、ひらがなや漢字の勉強にもなると思い、書道部に入りました。10月の大学祭で作品を展示するため、先生に指導していただきながら練習しています。また、部活の歓迎会に参加したり、部活動以外でも部員と交流していて、とても楽しいです。
(O.Y)



Q. 日本でやってみたいことはありますか？

A. 部活やアルバイトをしてみたいです。一番大切なのは大学での勉強だと思いますが、部活を通して色々な人と交流したり、アルバイトをして日本の接客を学んでみたいです。藤女子大学の日本語サポートの時間に面接の練習をしたので活かしたいです。
(C.Y)



Q. 留学中の目標はありますか？

A. 日本語能力試験で一番上のレベルに合格できるようにになりたいです。チューターや国際交流サークルの学生と友達になつたので、文法の間違いを恐れずに積極的に日本語を話したいです。そして、いつか日本の会社を紹介する広告の仕事に就きたいです。
(C.P)



Q. 藤女子大学の印象はどうですか？

A. 学生や教職員のみなさんがわたしたち一人ひとりに気を配ってくださいます。ゴールデンウィーク中、特に予定がないことを伝えると、先生が大倉山や北海道神宮に連れて行ってくださったたり、職員の方がお家に招待して下さったりしました。
(K.S)



第21回 研究室訪問

人間生活学部 食物栄養学科 教授 菊地 和美

菊地先生との楽しいお時間



今回は、人間生活学部食物栄養学科の菊地和美先生の研究室を訪問し、お話を聞かせていただきました。

菊地先生は5年前に本学に着任されて、現在は調理科学や食物の硬さの研究、管理栄養士を目指す学生を熱心にご指導されています。本学では「調理実習」「フードスペシャリスト論」「地域栄養学実習」「調理科学」などの指導にあたられています。

先生は、中学校、高等学校、短期大学が藤女子ご出身であり、「藤大好き人間なのです。」と何回もおっしゃっていました。短期大学では食物栄養学科で子どもの食事について研究されました。どうしてこの分野を研究しようと思ったのかとお尋ねしたところ、白衣が着られる職業に就きたいと思ったのと、先生のお母様が調理師だったため食に触れる機会が多かったのがきっかけだそうです。卒業後は保育園の栄養士として就職されました。また、仕事の傍ら他大学の通信へ編入し食料経済学という食材の流通について学ばれました。卒業後は「人と一緒に学びたい」という強い気持ちから大学院へ入学され母親と子どもの食事の比較や物性、ホイップクリームの泡立ての終点など非常に様々な研究をされました。これらの多様な経験をもとにして学生が進路で迷っていた時などアドバイスできたらいいなあとおっしゃっていました。

栄養士だった頃の苦労話をお伺いしたところ、保育園には栄養士が一人しかなく大変だったそうです。また、園児の年齢によって食事を変えなくてはならず、例えば0歳児にはミルクを作ったり、アレルギー持ちの園児には冷凍母乳を与えたり乳児には離乳食を作り、3歳児には手作りおやつを作ったりと忙しい毎日を送っていたそうです。また、印象に残っていることもお話し下さいました。先生は行事食を作るのが楽しく、七夕には流しそうめん、ひな祭りには薄焼き卵でお雛様を作ったりしたそうです。特に楽しかった行事はクリスマスでケーキを作ったことで、園児とホイップクリームを泡立てしているとき混ぜすぎてバターになってしまったという失敗談も語ってくれました。そして栄養士の時経験した離乳食の硬さの難しさやホイップクリームの泡立てをど

こで止めたらいかがかが、その後の大学院の研究につながったそうです。

先生は大学院生の頃、東京で一人暮らしをしていました。そこで一人暮らしの学生へのアドバイスをお願いしました。まず、冷凍をうまく使おうと仰っていました。一人暮らしだと食材が余ってしまいがちですが、ほうれん草などの野菜をさっとゆでて冷凍するだけで長持ちするし、パンは冷凍した方が美味しいとお話し下さいました。また、先生おすすめの料理は鍋で、先生も大学院生時代たくさんの友達を呼んでキムチ鍋や大根を薄くスライスした大根しゃぶしゃぶなどしたそうです。

そんな先生の趣味は映画や演劇を観に行くことや、旅行に行くことだそうです。特に絵本を読むことが好きで、親しいご友人の誕生日に絵本を贈ったりもするそうです。学生時代は文芸部、放送研究会に所属し特に放送研究会の仲間と共にラジオドラマの制作に携わり企画として自分たちで実際に効果音を録ったり脚本を書いたり、とても充実した楽しい学生生活を送っていたとのことでした。

現在先生は、北海道産食材を利用した料理の研究に力を入れており、本学生と共に「石狩産米粉」から乳幼児や高齢者に向けたパンや、おかゆ、リゾットなどの商品開発、とある会社とのコラボレーションを実現してゆくとのことでした。

最後に学生に向けて「とにかく元気に」「無理せずとにかく自分の好きなこと、楽しいと思うことをして下さい。後から振り返ると『良い時代だったな』と分かる時が来ますよ。」とおっしゃっていました。



また、「今も昔も藤女子大学の雰囲気は変わっていないので、これからもこの伝統を受け継いで藤女子ブランドをつなげて行って欲しい。」とお話し下さいました。

緊張しながら研究室に向かった私たちですが、温かく優しい笑顔で迎えてくださった先生のお陰で楽しく時間が過ぎてゆきました。菊地先生お忙しい中、貴重なお時間をありがとうございました。

花川執行部 人間生活学科 4年 S.M
人間生活学科 1年 K.A

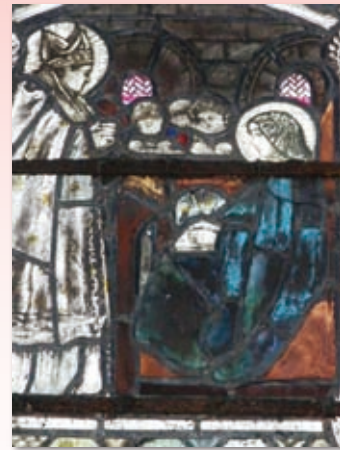
シリーズ キリスト教 豆知識・・・第11回

イングランド北東部の聖地巡礼 <英国カトリック教会の夜明け(2)>

前回、本学図書館にあるリンディスファーン福音書（ファクシミリ版）は、この写本が作られた修道院と島の名に由来することをご紹介しました。この聖なる島は、ブリテン島北東部のキリスト教布教の中心となりました。干潮時には道路が現れ、本島と陸続きとなります。島には最初に建てられた修道院の跡と、破壊された修道院の石で築かれたという小さな城が遺されており、修道院跡の一角に聖アイデン像とケルトの十字架が建っています。12世紀には潮が引くと徒歩で往来が出来ることで聖地巡礼と観光が結びついたといえます。今でも観光地として知られていますが、この地域の人々にとってはこの島やアイオナ島を訪ねることはその生涯において特別なことなのです。



ワイトビーの聖ヒルダ



聖ヒルダを訪ねる聖アイデン

この島から100キロほど南に**本学の協定校ニューカッスル大学**があるニューカッスル・アポン・タイン市があります。ここは紀元1世紀に、ローマ帝国が築いた北辺防備の拠点でした。多くの修道士がいた市内には1000年以上の歴史を持つ教会がいくつもあり、アイオナから来たケルトのキリスト教布教の伝統を受け継いでいます。当時の人々は教会の権威よりもむしろ身近な修道士達の精神に触れて信仰に導かれていったのだろうと想像します。一方、中部以南のイングランドは、**本学の協定校ケント大学**があるカンタベリーを中心にローマから遣わされた聖オーガスチンによるキリスト教が勢力を伸ばしていました。やがてケルトとローマの復活日の違いが論争となり664年ノーサンブリアのワイトビーにあった女子修道院（院長聖ヒルダ）で初めての公会議が開かれます。この会議でローマ教会の暦が標準となり、ブリテン島の正統なキリスト教の地位を得ることになりました。その後ローマ教会によるキリスト教統一は、イングランド王国の統一と勢力拡大にも繋がっていきます。このようにワイトビー公会議は、英国におけるカトリック教会の最初の大きな分岐点となるのです。

(キリスト教文化研究所 所員 下田 尊久)



キャリア支援センターが新設されました

キャリア支援センター長 関谷 博

確かに大学には「雲の上の歩き方」を学ぶようなところがあります。一度わが身を大地からひき離して、雲の上から世の中をじっくりと眺める。そして再び地上に降り立ち、より広い視野で、社会のために尽力できる人間を目指す、としておきましょうか。

この度新設になったキャリア支援センターは、就職支援が主たる任務であるのはもちろんですが、大学における学業を始めとする様々な活動全般が、将来社会に出てからの自分にとって、生き生きと役立つ、そんな充実したものとなるよう、サポートすることを目指しています。その

ため、教務部長・学生部長にもメンバーに加わってもらったのが新機軸で、うたい文句は「学習支援・生活支援・進路支援の総合的な立案と学内組織の有機的連携に基づく実施」です。当面の課題としては、一昨年から必修科目として開設された「女性とキャリア」（学問することの社会的意義を考える場）のいっそうの充実、現在用意されている就職支援行事をより効果的に展開してゆくための工夫などがあります。

雲の上での筋力トレーニングの成果が、大地でしっかり発揮されて欲しいと願っています。